

コース K-1



- エリアガイド**
START 霊仙寺・実相院・六所宮(狭谷)★
- 西方寺の里
 - 大不動岩屋
 - 尻付岩屋
 - 千燈寺
 - 旧千燈寺
 - 五辻不動
 - GOAL 岩戸寺▲

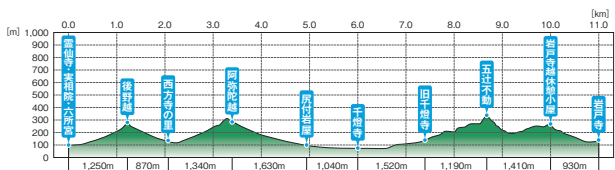
★K-1のゴールを渡る ▲K-2のスタートを渡る

大不動岩屋(西の不動)から五辻不動(東の不動)まで。峯道の神髄11.2km

東東の谷に並び建つ霊仙寺・実相院・六所宮が起点。六所宮の東側にある取付きから後野越と呼ばれる峠を越え、西方寺の集落を目指す。西方寺で一息入れた後は阿弥陀越を越えて、大不動岩屋へ。その後、県道31号線に出て千燈寺まで歩く。千燈寺でお参りした後は、旧千燈寺の観音堂を巡る。ここは一枚岩に半肉彫りされた仁王像や仁間菩薩の墓とされる国東塔、無数の五輪塔群、千燈寺奥ノ院など見どころが満載。史跡巡りの後は不動山山頂直下の五辻不動にお参りし、終点の岩戸寺へ。



大不動岩屋



★K-1のゴールを渡る ▲K-2のスタートを渡る

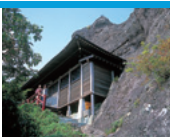
霊仙寺・実相院・六所宮(はいせんじ・じっそういん・ろくしょくぐう)

東東に並び建つ3つの社寺。霊仙寺は六郷満山末山本寺の古刹で養老2年に仁間菩薩により開創されたといわれている。境内にある地藏菩薩は高さ4.87mもあり、一石地藏尊では九州最大の大きさを誇る。霊仙寺の隣にある實相院はかつて霊仙寺の講堂であったとされるが、今は独立した寺となっている。鐘樓の近くには旧香々地町内で最大の4mにも及ぶ国東塔がある。



五辻不動(ごっしふどう)

仁間菩薩と4人の同行者が修行をしたと伝えられる秘所。不動山の山頂付近の岩壁に張り付くように建てられた堂宇には不動明王が祀られている。この場所からの眺望は素晴らしく、天気の良いれば、眼下に姫島や周防灘、豊後水道を一望することができる。また、不動堂は東に面しており、ご来光を拝するには最高の場所である。



コース K-4



- エリアガイド**
START 行入ダム公園★
- 赤松の里
 - 赤松仏跡
 - 狭間古池
 - 狭間新池
 - 丸小野寺
 - 報恩寺
 - GOAL 報恩寺公園▲

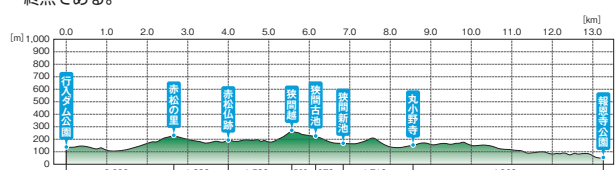
★K-3のゴールを渡る ▲K-5のスタートを渡る

クヌギ林とため池 国東半島宇佐地域世界農業遺産の魅力を感じる13.4km。

美しい景観を誇る行入ダム公園がコースの起点。ダムの堰堤を通り、急峻な万の岩に登る。万の岩の上に立つと行入ダムが一望できる。万の岩から尾根を辿り、林道を経由して、赤松の里に向かう。赤松の里からは狭間越の峠を越え、しばらく歩くと、狭間古池、狭間新池が現れる。池の周囲はクヌギ林が広大に広がり、世界農業遺産の魅力を伝える場所である。狭間新池を過ぎ、丸小野寺に立ち寄った後、原木椎茸のホダ場を抜け、報恩寺と報恩寺公園が終点である。



赤松の里



★K-3のゴールを渡る ▲K-5のスタートを渡る

丸小野寺(まるおのじ)

国東市武蔵町丸小野地区にある六郷満山霊場16番札所。本尊は不動明王。境内には国東塔や町有形文化財に指定されている板碑などがある。また、毎年、旧暦の1月15日に国家安泰、五穀豊穡と併せて子どもの無病息災を祈願して行われる「丸小野子供修正鬼会(まるおのこどもしゅじょうおにえ)」の舞台としても知られている寺である。



狭間新池(はざましんげ)

国東市武蔵町狭間にあるため池で、ロングトレイルコース上にある国東半島・宇佐地域世界農業遺産のスポットの一つ。池の周辺には世界に認められた循環型農林業の特色であるクヌギ林と連携された複数のため池、森の恵みである椎茸のホダ場などが続く景観が広がっている。広大なクヌギ林に囲まれた透明度の高い湖水とマッチした里山風景が印象的な場所である。



コース K-2



- エリアガイド**
START 岩戸寺★
- 大聖寺
 - 長慶寺
 - 山口池
 - 葛原集落跡
 - 三十仏
 - GOAL 文殊仙寺▲

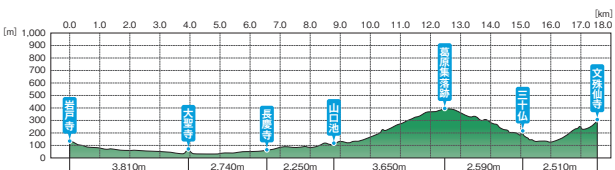
★K-1のゴールを渡る ▲K-3のスタートを渡る

古刹岩戸寺から文殊仙寺へ 里山と岩峰群歩きの絶景を行く17.6km。

優美な姿の国東塔があることで知られる岩戸寺がコースの基点。まずは県道544号線を北東に進んで、大聖寺へ。県道を挟んだ反対側の田んぼの中にある五輪塔群に立ち寄った後は来浦川を渡る。長慶寺を過ぎると、やがて目の前に山口池が見えてくる。池の堤防を通り、県道を左折して山の方へ西進。沿線には観音磨崖仏や岩戸耶馬など見どころが多い。最高点の葛原集落跡まで上り詰め、ゴロタ平の絶景を見ながら三十仏に下る。山口池の文殊仙寺分岐を南に進み終点の文殊仙寺を目指す。6月のハンカイ草群生は見事。



ゴロタ平



★K-1のゴールを渡る ▲K-3のスタートを渡る

岩戸寺(いわとし)

鎌倉時代は中山の岩殿岩屋、南北朝時代は末山本寺の岩戸寺、江戸時代に石立山岩戸寺と呼ばれていた。ここに残る国東塔はすずりとしたシルエットが美しい国指定の重要文化財で銘文のあるものとしては国東半島最古のものとされている。また、同じく国東市にある成仏寺と隔年交代で「修正鬼会(しゅじょうおにえ)」が行われることで有名な寺である。



葛原集落跡(くずらしゅうらくあと)

文殊山の北側の麓に位置する集落の跡で、林道沿いの林の中に住居の跡である石組みや御社の跡が残されている。石造りの鳥居の両側には小さな可愛らしい仁王像が並んでおり、その台座にはそれぞれ「金剛」、「力士」という文字が刻まれている。今ではすっかり人気は感じられないが、「国東町史」によれば昭和30年頃までは人家があったとされている。



コース K-3



- エリアガイド**
START 文殊仙寺★
- 成仏寺
 - 帝釈堂
 - 神宮寺
 - 泉福寺
 - 行入寺
 - GOAL 行入ダム公園▲

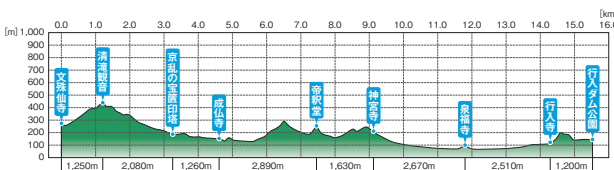
★K-2のゴールを渡る ▲K-4のスタートを渡る

文殊仙寺から行入寺へ 名だたる5つの寺院を巡る15.5km。

コースの基点となる文殊仙寺の駐車場から文殊山登山道に取り付く。しばらく進むと、清滝観音の分岐がある。山頂へ伸びる本道は右方向だが、ここでは左に進路をとり、清滝観音へ。清滝観音からはコンクリ舗装の道を京乱地区に下る。京乱の大きな宝篋印塔が先には東進して成仏寺へ。その後、横手越の峠を越えて神宮寺へ向かう。神宮寺に参拝した後はさらに東進して泉福寺まで歩く。泉福寺からは横手川沿いの道を西に戻って、行入寺を経由、コース終点の行入ダム公園を目指す。



文殊仙寺



★K-2のゴールを渡る ▲K-4のスタートを渡る

文殊仙寺(もんじゆせんじ)

「三人寄れば文殊の知恵」の発祥地としても知られる、日本三文殊のひとつ。南北朝時代には末元本寺の文殊仙寺、江戸時代には我廬山文殊寺とも呼ばれ、日本一大きな宝篋印塔やユニークな形の仁王像をはじめとする貴重な石像文化財が多く残されている。秋には「文殊耶馬」とも呼ばれる見事な紅葉が境内を染め、本堂である客殿では写経や座禅体験もできる。



泉福寺(せんぶくじ)

九州では珍しい室町時代後期の本格的禪宗様仏殿。国東半島に勢力を張った田原氏能の母、無伍尼の発願により永和元年(1375)、豊前・豊後で初の禅寺として開山された。天正9年(1581)、キリシタン大名である大友宗麟による焼き討ちをうけたも、明治時代の初期まで九州曹洞宗の総本山として栄えた。境内には国指定重要文化財の開山堂や仏殿など多くの文化財がある。



コース K-6



- エリアガイド**
START 梅園の里★
- 諸田山神社
 - 両子山
 - 両子寺奥ノ院
 - GOAL 両子寺

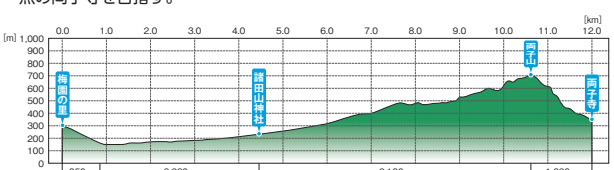
★K-5のゴールを渡る

国東半島の最高峰を経由して ロングトレイル終点の両子寺に至る12.0km。

コース起点の「梅園の里」から、まずは西側の朝来の谷に下っていき、途中、諸田山神社に立ち寄る。さらに北に上って行くと、やがて未舗装の走水林道と出会う。そのまま走水林道を進むと、道の左側に郡境尾根に至る取付きがあるので、そこから山の中へ。取り付きから80メートルほどで郡境の尾根道に出る。その先は600mピークやトンガリ山と呼ばれるピークを越えて、両子山山頂へ。両子山からの下山は旧町境の尾根道を使って、コース終点の両子寺を目指す。



両子寺奥ノ院



★K-5のゴールを渡る

両子山(ふたごさん)

名実ともに国東半島の中心といえる国東半島の最高峰で標高721メートル。半島のほぼ中央部に聳えるこの山から放射状に広がる谷は俗に国東二十八谷と呼ばれ、それぞれが6つにまとまって六郷を形成した。数基のアンテナ群や展望台のある山頂からの眺望は抜群で、天気の良いれば、周防灘や由布岳、姫島、中国・四国地方の山々まで見渡すことができる。



コース K-5



- エリアガイド**
START 報恩寺公園★
- 楽庭神社
 - 吉弘城跡
 - 西光寺
 - 光蓮寺
 - 三浦梅園旧宅
 - GOAL 梅園の里▲

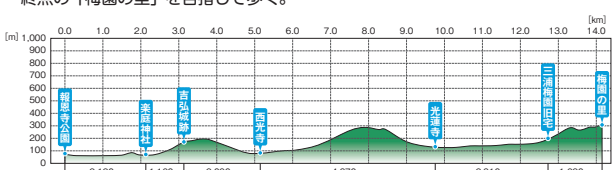
★K-4のゴールを渡る ▲K-6のスタートを渡る

高低差の緩やかなのんびりコース 里道歩きの醍醐味を満喫する14.3km。

毎年6月上旬に「武蔵町ハタルまつり」が行われる報恩寺公園がコースの起点。まずは武蔵川沿いの道を南に下り、次に吉広川を遡って「吉弘楽」で有名な楽庭神社へ向かう。楽庭神社に立ち寄った後は、いったん南側の山の中へ入って吉弘城跡を訪ねる。その後、再び北に下って吉弘川の川沿いの道を西光寺へ。西光寺から先は再び南側の峠を越えて両子の谷に下る。両子の谷に下った後は、光蓮寺、八坂神社、三浦梅園旧宅と立ち寄りながら、終点の「梅園の里」を目指して歩く。



吉広草原



★K-4のゴールを渡る ▲K-6のスタートを渡る

楽庭神社(がくにわじんじや)

南北朝時代に戦勝、五穀豊穡などを祈願して始まった「吉弘楽(よしひろがく)」が行われることで有名な神社。胸に太鼓を抱き、背中に旗を差した戦国時代の武士のようないでたちで披露される軽快かつ勇壮な舞は一見の価値がある。毎年旧暦の6月13日(現在では7月の第4日曜日)に行われて、1996年には国の重要無形民俗文化財に指定されている。



三浦梅園旧宅(みうらばいゑんきゅうたく)

三浦梅園は「豊後の三賢人」の一人に数えられる江戸時代の先哲、偉大な哲学者でありながら、優れた科学者でもあり、その才能は天文学から生物学、医学、政治経済学、文学にまで及んだ。その生家とされる三浦梅園旧宅は国指定史跡内の茅葺き屋根の建物である。また、隣接する三浦梅園資料館には梅園の遺稿や天球儀、肖像画などが展示されている。



両子寺(ふたごじ)

両子山の中腹にある六郷満山の総持院。1300年の歴史を持ち、特に子授けの寺として有名である。広い境内には国東半島最大級の石造仁王像や本尊の不動明王をはじめ諸仏を祀る護摩堂、色彩豊かな美しい壁画など、見どころも多い。また、紅葉の名所としても有名で、秋には色鮮やかな紅葉が楽しめる。国東半島筆道ロングトレイルのフィニッシュポイントである。

